

# 文化たまの



## 令和7年度 玉野市文化協会表彰状贈呈式

開催日：令和7年11月3日

場 所：玉野市立図書館・中央公民館

玉野市文化協会では、毎年「文化の日」に、本市の芸術・文化の発展に著しく貢献した方に、表彰状を贈呈しています。

今年度は、書道部、俳句部、陶芸部、洋画部、茶道部、華道部、ペン字部から推薦された7名の方が受賞されました。

第 29 号

令和7年12月1日  
編集・発行

玉野市文化協会

〒706-8510  
玉野市宇野1丁目27番1号  
玉野市教育委員会社会教育課内  
TEL (0863) 32-5577  
FAX (0863) 32-1329

# 会長就任の

## 御挨拶



江田 康夫

令和七年度文  
化協会総会で四  
年ぶりに会長に

選任されました江田 康夫です。  
前任の藤田様におかれましては、  
ご任期大変ご苦労様でした。お世  
話になりました。

文化協会各部二十団体は、毎年  
の指向に向けて精進・努力をされ  
ていることと思います。

一大事業の玉野市文化祭開催に  
当たりましては、多くの玉野市民  
参加のもと、開催を楽しみにして  
いる鑑賞者・聴衆者と会場の雰囲  
気は、市民と文化が融和されてい  
るように感じています。また、毎  
年リピーターも増え、定着してい  
るようと思われます。

このような今日の現状に至るま  
での文化協会の脈々たる業績は諸  
先輩・諸先生方のお力添えの賜物  
と心致しております。

今後も会員の皆様方の心豊かな  
交流とお力添えのもと、文化協会  
がより一層発展いたしますようご  
尽力のほどよろしくお願ひ申し上  
げます。

# 舞台芸術

## 民 踊

岡山県日本民踊協会  
創立四十周年発表会

植田 寿子

私たちせとうち民踊会が所属し  
ている岡山県日本民踊協会は創立  
四十周年を迎えました。

記念事業として就実大学音楽ホ  
ールを会場に所属団体二十三団体  
が日頃の練習の成果を発表して盛  
大に、発表会が開催されました。

私たちも一生懸命練習した民踊  
二曲を踊りましたが、他の団体も  
練習の成果がみられて楽しい一日

でした。

民踊協会が今後益々発展してい  
くよう改めて願っております。



# 俳句の魅力

牧野 米美

山頭火の一生について学んだの  
ち「うしろすがたのしぐれてゆく  
か」と再読したとき、教室に静寂  
が広がった。作者の生き様と重ね、  
深く感動している中学生の姿があ  
つた。その後で学級単位の句会を行  
つた。生徒たちは、有季定型の  
十七音の俳句は取り組みやすく創  
作の楽しさを味わい、句会では自  
分の句が認められる喜びを学んだ。

退職前の四年間は、小学校に勤  
務した。俳句を通して、児童的心  
を耕し、自己肯定感を育てたいと  
考え、夏井 いつき先生に指導を  
お願いした。三回の来校で、「十二  
音の俳句の種」を作った後、その  
種に合う「五音の季語」を選ぶ「取  
り合わせ」による俳句作りを指導

# 文 芸

## 俳 句

していただき、全校句会も実施できた。

退職後は、「水の会」に入会。諸先輩から日々助言や刺激をいただき、歳時記を開くたびに季語の力を実感する毎日である。これからは、年齢に関係なく楽しめる俳句の魅力を玉野に広めていきたいと思つてている。

## 川柳

前田 一石

出る釘が打たれて矛盾を  
ふと感じ

拓治

自らの所業ではないが、状況と  
してこんな理不尽はない。ただま  
あ少し調子に乗つていたことは確  
かではある。

やがてやがては私を潰しにくる

ひろえ

「未来」への想いは「願い」をも



内蔵して希望が優先するはずだが、この状況を思うと、明るい観測は得られそうにない。「やがてやがて」の未来観が寒さを連れてくる。

## 本心は言わずくるくる リンゴ剥く

きりこ

病院での見舞い看護の状況であ  
ろう。だから余計に「本心は言わ  
ず」への想いが、ただならぬ気配  
さえ伝えてくる。

## パン忘れ

正廣

ここまでくると「立派」?だ。帰  
つて気付き、また出かける。パン  
は持ち帰ったが、安売りの「キヤ  
ベツ」を買うつもりが、また忘れ  
て帰つてしまつた。「駄目だ、コリ  
ヤー」である。

ここまでくると「立派」?だ。帰  
つて気付き、また出かける。パン  
は持ち帰ったが、安売りの「キヤ  
ベツ」を買うつもりが、また忘れ  
て帰つてしまつた。「駄目だ、コリ  
ヤー」である。

下り立ちて浦田に拾ふ海人の子  
はつみより罪を習ふなりけり

があります。これを顕彰して西行  
賞が制定されました。

昭和五十九年、山野草に趣きを  
持つ有志で発足し、以来年二回  
(春・秋)育成した草花を持ち寄つ  
て、会員の親睦及び展示品を一般

短歌会は現在九名(女性八名・  
男性一名)で活動しています。月  
に二度、三首と二首を持ち寄り、互  
に鑑賞し批評しあつて楽しく学  
んでいます。

短歌会は現在九名(女性八名・  
男性一名)で活動しています。月  
に二度、三首と二首を持ち寄り、互  
に鑑賞し批評しあつて楽しく学  
んでいます。

ループ橋より臨める海は風ぎわ  
たり四国の山が近くに見ゆる  
荒れてかたむきゆかん冬の銀漢  
井関 古都路

松下 政子

## 山野草

## 仲間の作品鑑賞

前田 一石

拓治

自らの所業ではないが、状況と  
してこんな理不尽はない。ただま  
あ少し調子に乗つていたことは確  
かではある。

やがてやがては私を潰しにくる

ひろえ

「未来」への想いは「願い」をも

## 短歌

鎌野 廣

を作つてみませんか。そして西行  
賞に応募しませんか。新しい仲間  
をお待ちしています。

## 「玉野山野草の会」の 一年間の活動

谷岡 清志

の方々にも鑑賞して頂き、草花の愉しさを知つていただく活動を継続しております。

春の展示会に向けては、前年の秋の展示会終了後、春の展示の植替、株分け、種まき等の準備を寒風吹く一月末まで行います。この辛い植替作業を四月後半の展示会場での開花に向けて、水やり、遮光ネット張り替え等の調整を各自行います。

秋の展示会に向けては、春の展示会終了後、作場に遮光ネットを張ります。秋の特徴である紅葉、実、種、花等の展示品へ、旬の時期の開花をイメージしながら、夏場の気温を考えて、水持ち、水はけを考えた土配合の調整といった春と同様な作業を行い、本格的な夏場（七・八月）を乗り切つておりました。しかし、今年の夏は異常気象が顕著に現れ、遮光ネット下でも熱風が通る状況にて、特に高山系植物は、会員の皆様も育成が難しい状況でした。

山野草会の課題として、ご存じのとおり、今後、夏の異常気象が

通年化となれば、鉢で育てる山野

草へは致命的なダメージ（遮光ネット化での葉焼け、水過不足による根腐れ、立ち枯れ）が多発し、この状況では、今後、秋の展示会の開催が困難ではと危惧している所です。



## 書画・創作

### 日本画

岡野 収

水墨画教室は五グループありそれぞれ伝わっている描き方を中心にお楽しみながら書いている。

墨を付けた筆を画仙紙に降ろす。画く物は決まっているようで決まつていらない。墨の線が、勝手に形を追っている。何をどう描こうと全くの自由だ。線があつても無くても墨の塊から絵になることも筆に任せよう。墨色の変化や勢い、そして顔彩の面白さが交じり合いながら絵になっていく。

「之（これ）を好む者は之（これ）を楽しむ者に不如（しかず）」とか描いている本人が楽しめば、納得すればそれで良いのではないだろうか。自分が描いている絵は誰がどう言おうと自分の絵でしかないのだから。

そうして教室の中でみんな自分

の絵が一番と思いながら描いて互いに机を行つたり来たりしながら自分の考えを画友に伝える。伝えられ変わった訳ではないが互いに楽しんでいる。

### 洋画

有藤 富男

三十年前洋画部の作品展に携わった時、作品の大きさと作品の多さに驚きました。最近思うことは、数年前取り壊されたモダンな文化センターや、子どもたちが夏の美術講習で使えた多くの文化施設の復活です。近年の瀬戸内国際芸術祭の余波も感じる中で、観光客に玉野として見ていただける美術館もなく、地元出身の世界や日本中で活躍されているアーティストに提供できるステージもなく、玉野の景勝地をつなぐコースもなさそうです。豊かな自然や玉野独自の文化を工夫し活性化するベースが、自由に使える文化施設です。

人はすてきなものがあるところ

には、そのためにだけでも動きます。今はSNSの時代。様々な工夫をして知らせることができます。

市民が集えるすてきな施設で多面

的な交流が新しい発想を産み、人

集めの現代アートではなく、社会

に眼を向ける交流が街全体の活性

化の力になると考えています。不

要品で作られたオブジェを受け入れた市民なら、やがてSDGsを楽しめる交流型アートにも発展する力を持つかもしれませんね。



ガザ始め戦場で殺された子供たちの死を悼み 戦争を憎む  
1996年生後5ヶ月 娘の寝顔 夏 昔のスケッチを見て思う

## 近土 由美（清玉）



二〇二二五大阪・関西万博で「白と黒の伝統」書道の魅力を世界に「」と題した書道展が開催され、出品参加しました。

老子の言葉に【知白守黒（白を

知りて黒を守る】があります。白い紙に墨をつけた筆で表現する伝統的な書道においては、有名な詩や句、文章を揮毫すると作者と同等のような錯覚を覚えますが、そ

の人のその時の感じ方こそが尊く、いろいろと思索して作品を仕上げていきます。運筆の際、筆の上下運動の高低や遅速、文字の拡大や縮小、呼吸の差などそれぞれ独自の技法で表現します。漢字・仮名・近代詩文書・前衛書など表現の違いはありますが、大切にしていることはみな共通しています。

それは臨書の心得です。「書は臨書に始まり、臨書に終わる」と言われています。古典となる所の作品を手本として、その形や筆遣いを読み取り、作者の精神までも模

倣して、筆の運び方や力の入れ方など、書に必要な技術を習得して自己の作品へと発展させていきます。

文化協会書道部員はこの課題に取り組み、日々精進してまいります。



## 玉野市文化祭 硬筆書道展を終えて



入矢 奈々

令和六年十一月二十八日から十二月一日まで、玉野市立中央公民館にて毎年恒例の玉野市文化祭硬筆書道展が開催されました。

千字文や現代文、俳句や古典作品の一節などが、ペンや筆ペンだけでなく竹片や木片、絵筆など、普段文字を書くのにあまり使用されない筆記用具を用いて書かれており、来場者の目を引いていました。

数年前から学生部の作品も展示されるようになつたためか、来場される方も老若男女様々で、時間をかけて作品を見て回つたり、会場の受付で作品や硬筆用具について、気になることを質問されたりしている様子が見られました。これを見つかけにもつと多くの人が硬筆書道に関心を持つてくださいばいいなと思いました。

最後になりましたが、玉野市の

文化の更なるご発展を祈念いたします。



## 茶 華 道



喫茶去

四宮 美智子

玉野市文化協会茶道部には、裏千家流を指導している四人の先生方が集う淡交会と、表千家流、有楽流、藪内流をそれぞれ指導して

「喫茶去」  
深い意味はさておき、  
「肩肘張らずに気軽にお茶を一服  
どうぞ」

そのような時間を少しでも多くの  
方に経験していただきたいと願  
っています。

茶道流派にこだわらず、初心者の方  
にも気軽にに向いてください幸  
いです。

禅語に「喫茶去」という言葉が  
あります。茶掛にはよく用いられ  
ます。

一席が三十分少々の時間ではあ  
りますが、席主の苦心した趣向の  
空間に浸り、「心静かにお菓子をい  
ただいて一服のお茶を飲み、ほつ  
とする満足感をこの一時で味わつ  
ていただく」

文化協会茶道部はそのもてなしと心配りに  
感謝を込めて色々と席主との会話  
をする。互いに和やかな一時を樂  
しむ……。

席主は、その時々の趣向を凝ら  
したこしらえでお客様をもてなし、  
お客様はそのもてなしと心配りに  
開催を担当しています。

いる四人の先生が集う茶道連盟と  
の二グループがあり、隔月に月釜  
中央公民館のギャラリーで八流派

（池坊・一生流・彩葉会・御室流・  
嵯峨御流・小原流・草月流・桑原  
專慶流）による華道展を開催して  
おります。二日間で四百名近くの  
お客様に見ていただいております。  
また、玉野市役所の一階ロビー  
には、ボランティアで十五年程前  
から華道部員が毎週季節のお花を  
生けさせていただいております。  
市民の皆様に「きれいなお花を  
いつもありがとうございます」とか「いつも  
ご苦労様」などと言つていただき  
励みになつております。  
これらを通じて、お花のある暮  
らしが皆様に少しでも素敵に感じ  
ていただけましたらうれしく思  
います。

文化協会華道部は年一回テーマ  
を決め、メルカの二階玉野市立中  
央公民館のギャラリーで八流派  
（池坊・一生流・彩葉会・御室流・  
嵯峨御流・小原流・草月流・桑原  
專慶流）による華道展を開催して  
おります。二日間で四百名近くの  
お客様に見ていただいております。  
また、玉野市役所の一階ロビー  
には、ボランティアで十五年程前  
から華道部員が毎週季節のお花を  
生けさせていただいております。  
市民の皆様に「きれいなお花を  
いつもありがとうございます」とか「いつも  
ご苦労様」などと言つていただき  
励みになつております。

文化協会写真部は現在十一人の  
会員で活動しています。  
各自デジタルカメラ（一眼・ミ  
ラーレス）を使用し、通常は自宅  
のプリンターや使つてプリントし  
て写真作品にしています。  
月一度の勉強会を玉野市立中央  
公民館の研修室で行つています。  
作品を三点ずつ提出して外部の講  
師へ送り評価を依頼し、講評の録  
音テープを聞きながらボードに貼  
り出した写真を一点ずつ皆で鑑賞

## 花のある暮らし

徳田 瞳子



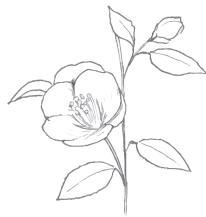
## 映像文化

清水 孝之



チエックすることとしています。

写真撮影は個人で出かけたり、外部の撮影会にも参加したりしています。題材は身近な花や鳥・動物・自然・行事・人物スナップなどですが興味を惹かれるものがあれば何でも良いわけです。



外部の各種コンテストに応募し賞をねらい公に評価してもらう機会も多々あります。写真を展示して見てもう場としては、会員だけの作品を五点ずつ展示する支部写真展を春に、広く一般の方の作品を一人二点展示する市民公募写真展を秋に玉野市立中央公民館のギャラリーで開催しています。

写真是生涯文化活動として身体を動かし頭を使うことで健康増進に最適と思われますが、会員の高齢化も進み新規入会者がなかなかいないのが悩みです。ぜひご入会をお待ちしています。

備前玉野太鼓は、現在、小学生から大人まで年齢層は幅広く、十一名で活動しています。

練習は、毎週火曜日十九時から二十一時まで、玉野スポーツセンターの卓球場で行っています。福祉施設や、各地区のお祭りやイベントなど依頼を受け、演奏しています。

また、今年もUNOホテル前で開催された盆踊りで、玉野いきいき音頭・花咲く玉野の音に合わせてリズム打ちもさせていただきました。演奏会場によつては、和太鼓体験の時間を設けて、お客様に実際に和太鼓に触れてもらい、和太鼓を打つ楽しさや音の響きを感じもらっています。また、岡山県内で活動している他の和太鼓団体とも交流を深めながら、お互い

## 音 樂

廣畑 武史

## 玉野太鼓

に切磋琢磨しています。

玉野市という地域に根付いた和太鼓チーム、そして四十年以上続く歴史あるチームとして、伝統を守りながら今後も幅広く活動していくります。

「合唱」とは、複数人の人が異なる声部に分かれて、複数人で歌う声楽の演奏形態を指す。

## 合 唱

小泉 則子



「合唱」をインターネットで検索してみると、

「合唱とは、複数人の人が異なる声

楽部に分かれて、複数人で歌う声楽

## ギター・マンドリン

中田 美千代

今年の会場はすこやかセンター やまももホールに変わりましたが、

しいハーモニーを作り出すことで参加者同士の間に強い結びつきが生まれるのが特徴。」

と一緒に歌うことで、他者と一体化した様に感じられるのはなぜでしょうか。その理由を科学的に解明するのは脳科学や心理学などの領域になるとと思いますが、リズムを合わせる共同作業、みんなで揃えることで「一緒に行動している」という実感が生まれていくのだと思います。

「一体化する」「心がひとつになる」自分たちが体感した、その場に生まれる「歌のチカラ」「楽しさ」が、聞いて下さっている皆様方にお届けできる様に、日々努力を重ね、これからも頑張ってまいりたいと思います。

無事第五十四回定期演奏会を終えることが出来ました。半世紀以上も続くクラブの活動は、本当に周りの皆さんとの温かい励ましと協力によるものと、深く感謝しています。

現在は月に二回のクラブの練習と、月一回プロの先生の指導を受けています。正直会員も高齢化してきて、ちぐはぐなことも起りますが、それもたまには良し。

しかし練習となると、自然と背筋が伸びます。いとしい愛器を抱え、懐かしいメロディーなどを合奏すると、皆の顔にほほえみが浮かびます。

これから目標は「継続は力なり」個人の都合だけで動けなくなるかもしれませんのが、ずっとこれからも皆で音楽を楽しんでいきたいと思います。



第八十七回の様子

## お知らせ 報告

### 管弦楽

玉野フィルハーモニー管弦楽団

第二十七回定期演奏会

日時／令和七年二月二日（日）

場所／すこやかセンター

日程／令和六年十一月二十日（水）～二十四日（日）

場所／玉野市立中央公民館

指揮／横野 清治

曲目／シューベルト／イタリア風序曲第二番

シューベルト／交響曲第三番ベートーヴェン／交響曲第七番

日程／令和七年五月二十一日（水）～二十五日（日）  
場所／玉野市立中央公民館  
ギャラリー

右記日程にて作品展を開催し、多くの方にご来場いただきました。

台風の接近により、開催を九月から二月に延期しましたが、約百名の聴衆の方に来場頂き、演奏を楽しんでいただきました。

次回、第二十八回定期演奏会は、

創立三十周年記念公演として、令和八年二月八日（日）早島町町民総合会館ゆるびの舎 文化ホールにて、岡山フィルハーモニック管弦楽団の長坂 拓己氏をソリストに迎え、ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲二短調、交響曲第五番「運命」、シューベルト／交響曲第五番「未完成」のプログラムで

開催します。

## 吹奏楽

玉野ウインドオーケストラ

創団四十周年記念 第三十八回定期演奏会

日程／令和七年六月二十二日（日）

場所／灘崎文化センター





遺言も戒名も書き生身塊

遺言も戒名も書き生身塊  
西上 みどり

三  
身  
法

みどり

ジャズバンド

邦樂

見納めの剣の舞や桐一葉  
那須 澄雄

前一葉  
那須 澄雄

## 昼下がりのダンスパーティー

月釜のご案内（日程）

を迎え、本年度は次の七名の方々に、文化協会の発展に多大な功績があつたとして、表彰状と記念品を贈呈しました。

第六十七回玉野市邦楽連盟邦楽演奏会が令和七年十一月二十三日（日）に開催されました。園児学生から高齢者までが出演し、古典から現代曲まで十一曲を演奏しました。

チケツト／五百円（当日販売）  
社交ダンスパーティーを行いま  
す。

演奏は、「ジャイブ、ルンバ、マンボ、チャチャチャ」など、色々なスタイルで演奏します。

(日)に開催されました。園児学生から高齢者までが出演し、古典から現代曲まで十一曲を演奏しました。

一月十七日 初茶会 裏千家  
二月十四日 表千家 竹内宗範

## 文化协会表彰

A black and white portrait of Shigeo Fukuda, an elderly man with glasses and a suit.

書道部  
加納 祐三

文化協會被表彰者

表彰していただきましてありがとうございます。  
幼少より今日まで筆とのご縁を  
継続できたことに感謝いたしてお  
ります。

A black and white photograph of a large jazz band, the "Grove Unity Jazz Orchestra," performing on stage. The band consists of approximately 20 musicians, including brass players, woodwind players, and a pianist. They are positioned in front of a large banner that reads "GROVE UNITY JAZZ ORCHESTRA" with a stylized eagle logo. The stage has dark curtains in the background.

茶道

# ジャズバンド

茶道

を迎えて、本年度は次の七名の方々

一月十七日 初茶会 裏千家  
二月十四日 表千家 竹内宗範  
**文化協会表彰**  
令和七年度の文化協会表彰状贈呈式を、十一月三日（月・祝）に玉野市立中央公民館で開催し、来賓に市長・市議会議長・教育長・市議会副議長・教育次長をお迎えし執り行いました。

七月五日 七夕茶会 連盟会  
九月二十七日 月見茶会 裏千家  
十一月三日 文化祭茶会 裏千家

幼少期は、片岡 竹窓先生、後  
石賀 桂樹先生にご指導を仰ぎ諸



生き方を禁止され、一兵士として戦います。私たちはそれを伝え、文化の大切さ、生きる事の意義を各自の作品を通して表現することでの平和の素晴らしさと、戦争の無意味さを伝え続ける責務をそれぞれの文化協会が担つてきいていたことを再認識し、私もその一員としてより良い作品として表現していきたいと思います。



### 茶道部

小林  
秀子

(宗秀)

このたびは、玉野市文化協会より表彰していただき感謝申し上げます。

平成元年に玉野市から早島町へ

転居しており、自宅と玉野市の稽古場で裏千家茶道を教授しています。近藤 宗貞先生に師事して、玉野マリン青年部の部長在任中は月見茶会や師走茶会など親支部の先生方からのご支援をいただいて色々と青年部なりの趣向を凝らしました。茶席を開催してお客様に楽しんでいただきました。青年部卒業後

は、裏千家淡交会の幹事として月金や諸行事に協力させていただいている。

これまで長く続けてこれましたのはお茶を通じて多くの人との繋がりがあつたからです。今後も後進の為に尽力させていただきます。



### 華道部

吉田  
美佐紀

このたび、玉野市文化協会より表彰をいただき、大変光栄に存じます。日頃より温かいご指導をくださっている先生方、そして共に活動する会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

お花を習い始めてから三十七年の歳月が過ぎました。最初の頃は、先生に教わったとおりに生けることで精一杯でしたが、年月を重ねるうちに、自分の思いや考えを表現できるようになりました。

玉野は海や山に恵まれ、四季折々の花々に囲まれた美しい土地です。

この自然の中で季節の移ろいを

感じながら花を生けることができ、幸せを感じております。

これからも、「素敵だった」「面白いわ」「楽しみです」といった皆様からの温かいお言葉をいただけよう、心を込めて取り組んでもりたいと思います。



### ペン字部

辻本  
裕美

(芳泉)

このたびは、玉野市文化協会より表彰していただき、身に余る光榮で誠にありがとうございます。四十歳のころ、ふとした機会にとても惹かれる書風に出会いました。その時、中学生までペン習字教室に通っていたことを思い出しました。

お花を習い始めてから三十七年の歳月が過ぎました。最初の頃は、先生に教わったとおりに生けることで精一杯でしたが、年月を重ねるうちに、自分の思いや考えを表現できるようになりました。

毎月「ペンの光」誌へ出品。温かく的確にご指導いただける先生

のもと、上を目指す目標をもつて、時間があれば練習しました。書の奥深さを教わり、身につく楽しさを感じるようになり挫折も経験しましたが、今まで続けてくることができました。

よき師、よき仲間に恵まれ、これからも自己研鑽を怠ることなく、感謝の気持ちをもつて、精進して参りたいと思います。

### 文化たまの編集委員

江田 康夫 山口 正  
藤原 多恵子 青井 泰則  
関 真実 綱川 則枝  
日村 喬 細川 健二

